

平成26年度秋の叙勲・褒章受章者

11月3日に叙勲及び褒章受章者が発表され、以下の会員が榮に浴されました。
心よりお慶び申し上げます。

叙勲者の横顔



旭日双光章（弁理士業務功労）

ふじ 藤 村 元 彦
むら もと ひこ

学歴・職歴

昭和41年 九州工業大学電気工学科 卒業
(現在) 特許業務法人レクスト国際特許事務所

弁理士会歴

昭和49年 弁理士登録(7911号)
昭和60年～昭和62年 弁理士会常議員
昭和60年～昭和61年 ペーパーレス問題対策委員会 副委員長
昭和61年～昭和62年 弁理士業務対策委員会 委員長
平成3年 AIPPI東京総会協力準備委員会 副委員長
平成4年～平成5年 広報委員会 委員長
平成5年～平成6年 弁理士会理事(副会長)
平成6年～平成7年 外弁問題検討委員会 委員長
平成7年～平成8年 総合政策検討委員会 副委員長
平成8年～平成9年 国際活動委員会 副委員長
平成9年～平成10年 国際活動委員会 委員長
平成12年～平成13年 国際活動委員会 副委員長
平成14年～平成15年 国際政策委員会 副委員長
平成15年～平成17年 国際活動センター 委員長
平成17年～平成18年 国際活動センター センター長
平成20年～平成21年 日本弁理士会執行理事
平成20年～平成22年 日本弁理士会常議員
平成21年～平成22年 常議員会第二委員会 委員

懇談会

平成6年～平成7年 弁理士会と特許懇との懇談会 委員
平成6年～平成7年 制度問題懇談会 委員
平成10年 司法制度特別懇談会 委員

公職

平成11年～平成12年 弁理士審査会臨時委員

賞

平成1年 弁理士制度90周年記念式典特別功労
平成6年 弁理士会特別功労表彰
平成10年 弁理士会特別功労表彰
平成11年 弁理士制度100周年記念式典特別功労者表彰
平成13年 日本弁理士会感謝状
平成16年 日本弁理士会永年功労表彰
平成17年 日本弁理士会特別功労表彰

平成 21 年 日本弁理士会特別功労表彰

平成 21 年 弁理士制度 110 周年記念式典特別功労者表彰

平成 22 年 日本弁理士会特別功労表彰

受章に浴して

平成 26 年秋の叙勲に際し、思いがけず、叙勲の栄に浴し、誠に光栄に存じますと共に、特許庁、日本弁理士会の方々をはじめ、私を導きかつ支えて下さった多くの方々に心から御礼申し上げます。

振り返りますと、私のこれまでの人生は様々な良き人との幸運な巡り合いの連鎖でありました。

私の中学時代の英語教師は、学生時代にザビエル教会の牧師の家に下宿されていたそうで岩国基地の米軍関係者とも親しく、英会話はネイティブのようでした。大学卒業後まもない若い先生は、ネイティブの発音を厳しく教えて下さいました。このことが、私が弁理士になった大きな要因の 1 つです。

次は、弁理士の皆様、なかんずく、春秋会及び浅村理事会の皆様との巡り合いです。春秋会で育てられ、浅村理事会で会長を始めとする素晴らしい理事仲間のご薫陶を頂きつつ特許庁担当理事として働かせて頂き、特許行政の現場を目の当たりにして視野が広がりました。

そして、日本弁理士について初めて代理人顧客守秘特権（ACP）を認定したいわゆる VLT 事件（2000 年）に巡り合いました。私の米国顧客が私と交わした書簡がディスカバリの対象となったのです。弁理士である私に関する ACP の存否の争いでした。米国サイドからは ACP の争いがあることは一切教えてくれなかったのですが、私は、国際活動委員会や外弁委員長も経験していましたので、ピンとききました。弁理士の歴史や権限について詳しく、1998 年 AIPLA 総会で発表した時の配布英文原稿の写しを担当米国弁護士に送りました。結果として、弁理士と顧客間の通信について史上初めて ACP を肯定する良い判決が得られました。

巡り会いと言えば、やはり忘れてはならないのは、私のような者にお仕事を下さったお客様や私を信じて支えて頂いた私の事務所員の存在です。本当にお世話になりました。最後はやはり私の家族です。無趣味で毎日仕事ばかりの私を何とか形にしてくれているのが家内です。また、長男が弁理士として私の事務所で頑張ってくれています。心強かつ有り難い限りです。

幸いにも私はまだ健康です。当分の間、現役で頑張るつもりですので、今後とも変わらぬご交誼を賜りたくお願い申し上げます。



瑞宝小綬章 (通産行政事務功労)

みつ だ あつし
光 田 敦

学歴・職歴

昭和 42 年 東京電機大学工学部第一部機械工学科 卒業
特許庁入庁
昭和 46 年 審査官
昭和 50 年 科学技術庁出向 (原子力局国際協力課保障措置室査察官)
昭和 53 年 審査官
昭和 57 年 審判官
昭和 59 年 審査官
新エネルギー総合開発機構 (燃料・貯蔵技術開発室主任研究員)
昭和 61 年 審査官
昭和 63 年 工業技術院総務部研究開発官
平成 2 年 上級審判官
審査第三部審査長
平成 3 年 審判部審判長
平成 6 年～8 年 弁理士審査会臨時委員, 委員
平成 6 年 審判部審判長 (部門長)
平成 9 年 特許庁退職
光田特許事務所開設
(現在) 光田特許事務所

弁理士会歴

平成 9 年 弁理士登録 (11017 号)
平成 16 年 特定侵害訴訟代理業務付記登録

受章に浴して

この度は、平成 26 年秋の叙勲の栄に浴し、身に余る光栄に存じております。
これもひとえに、特許庁、特許庁在職中にお世話になった皆様、日本弁理士会、弁理士としてご支援いただいた方々の賜物と、心より感謝申し上げます。
この度の叙勲に際しまして、特許庁、日本弁理士会をはじめ多くの関係各位からご丁寧なご祝意を頂きましたこと、心より御礼申し上げます。
特許庁在職時は、特許制度、基準、技術等について、先輩方からいろいろなご指導をいただくとともに、議論もさせていただきました。弁理士業務に携わってからは、弁理士会主催のさまざまな講演を聴かせていただいております。そのような折々の場面が仕事を進める際にも浮かんできて、大きな力となっております。
また、特許庁から科学技術庁、NEDO 及び工業技術院へ出向し、技術開発の仕事の機会を与えていただき、技術開発の面白さ、困難さを多少なりとも実感し、技術開発側の視点を持つことができたことは、弁理士の仕事においても極めて貴重な経験となりました。
皆様のこれまでのご厚誼に心から感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬご指導のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



瑞宝小綬章 (通産行政事務功労)

やま だ ます お
山 田 益 男

学歴・職歴

昭和 42 年 東京理科大学 理学部 1 部 応用物理学科 卒業
昭和 42 年 4 月 特許庁入庁
昭和 46 年 4 月 特許庁審査官
昭和 58 年 10 月 特許庁審判官
平成 2 年 6 月 特許庁審査部審査長
平成 4 年 1 月 特許庁審判長
平成 5 年～ 7 年 弁理士審査会試験部会委員
平成 9 年 10 月 特許庁退職
(現在) アプタス国際特許事務所

弁理士会歴

平成 9 年 弁理士登録 (11051 号)
平成 9 年 大城・山田・佐藤国際特許事務所
平成 13 年 アプタス国際特許事務所 (名称変更)

受章に浴して

この度は、平成 26 年秋の叙勲を賜り、恐縮しつつ感謝いたしております。弁理士としてではなく、前職の特許庁での業績による受章です。特許庁在職 30 年余り、弁理士として 17 年余り、48 年にわたり特許の分野で働かせていただきました。審査官の場合も、弁理士の場合も自分の机に居ながらにして、研究開発によって生まれた先端技術が世界中から届けられるという、極めて恵まれた環境で仕事をさせて頂きました。発明者からは当方が理解できるまで、熱心に説明を受けることができ、技術的好奇心が満たされるという、まさに、技術者冥利に尽きるお仕事でありました。古稀という年齢に至り、さすがに新出願の仕事を受けることは依頼人に失礼と思い、最近では既出願案件の内外特許庁からの拒絶理由対応の仕事をこなしつつ、この仕事の収束を計っております。今日まで楽しく充実して働かせていただきましたことを、特許関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

お陰様にて、健康には恵まれておりますので、これからは、この仕事を通して学びましたことを少しでも社会に還元できることを心がけてゆきたいと存じます。よろしくお願い致します。



瑞宝小綬章 (通産行政事務功労)

きむらよしお
木村良雄

学歴・職歴

昭和 42 年 3 月 東京電機大学 機械工学科 卒業
昭和 42 年 4 月 特許庁入庁
昭和 46 年 4 月 審査第三部審査官 (動力機械)
平成 1 年 4 月 (財) 工業所有権協力センター勤務
平成 2 年 10 月 特許庁審査第 3 部空調機器審査管理官
平成 5 年 4 月 審判部審判長 (第 7 部門動力機械)
平成 8 年 4 月 審判部審判長 (第 15 部門計測) 部門長
平成 10 年 3 月 退官
平成 10 年 4 月 (独) 産業技術総合研究所工業所有権推進官
平成 10 年 4 月 みどり特許事務所開設
平成 21 年 3 月 (独) 産業技術総合研究所退職
(現在) みどり特許事務所

弁理士会歴

平成 10 年 弁理士登録 (11194 号)

受章に浴して

此の度は、平成 26 年秋の叙勲に浴し身に余る光栄でございます。

この度の受賞は特許庁在職中にお世話になりました方々、並びに弁理士として支えていただいた弁理士会の皆様の賜物と、この紙面をお借りして厚くお礼を申し上げます。

思い起こすと、大学時代に同級であり、この度の受賞に浴した光田さんと共に、特許庁に入庁いたしました。以来、入庁後 2、3 年生で特許公開制度の導入という特許法大改正で、日本自動車工業会、日本自動車部品工業会等各種工業会に説明に行った事を懐かしく覚えております。その後専らエンジンの制御の審査を担当し、25 年が経ちました。それから各種の技術分野を担当し、特許庁に 32 年間在職し、平成 10 年に退職しました。その後、弁理士となり、先輩と共に特許事務所を開設し、一方、筑波の (独) 産業技術総合研究所にて特許出願のお手伝いをさせていただき、平成 20 年まで勤務しました。この様な弁理士の仕事をするに際し、弁理士の先輩の方々の支援をいただきながら今日まで仕事を続けることが出来ました。

これもひとえに皆様方のご厚情と感謝申し上げます。

褒章者の横顔



黄綬褒章 (弁理士業務功労)

にし やま まさ や
西 山 雅 也

学歴・職歴

昭和 39 年 東京理科大学理学部化学科 卒業
平成 20 年 東京農工大学専門職大学院技術経営研究科 修了
(現在) 青和特許法律事務所

弁理士会歴

昭和 52 年 弁理士登録 (8289 号)
昭和 60 年～昭和 61 年 特許制度運用協議委員会 副委員長
昭和 61 年～昭和 62 年 弁理士法改正特別委員会 副委員長
昭和 62 年～昭和 63 年 特許制度運用協議委員会 副委員長
昭和 63 年～平成 2 年 弁理士会常議員
平成 1 年～平成 2 年 ペーパーレス問題対策委員会 副委員長
平成 2 年～平成 3 年 特許事務報酬制度委員会 副委員長
平成 3 年～平成 4 年 令規委員会 副委員長
平成 4 年～平成 5 年 特許制度運用協議委員会 委員長
平成 6 年～平成 7 年 弁理士業務対策委員会 副委員長
平成 7 年～平成 8 年 方式事項検討委員会 副委員長
平成 8 年～平成 9 年 外弁等問題検討委員会 副委員長
平成 9 年～平成 10 年 GATS 等検討委員会 副委員長
平成 11 年～平成 13 年 研修所 副所長
平成 13 年～平成 14 年 著作権委員会 委員長
平成 13 年～平成 14 年 審査委員会 委員 (主査)
平成 14 年～平成 15 年 審査委員会 委員 (部長)
平成 17 年～平成 18 年 綱紀委員会 副委員長
平成 21 年～平成 23 年 日本弁理士会監事

公職

平成 21 年・平成 22 年 工業所有権審議会試験委員

賞

平成 3 年 弁理士会特別功労表彰
平成 8 年 弁理士会特別功労表彰
平成 13 年 日本弁理士会永年功労表彰
平成 14 年 日本弁理士会特別功労表彰
平成 22 年 日本弁理士会感謝状
平成 23 年 日本弁理士会感謝状
平成 23 年 日本弁理士会特別功労表彰

受章に浴して

この度は、囃らずも平成 26 年秋の褒章におきまして黄綬褒章の榮に浴することとなり、身に余る光榮に存じます。また多くの皆様から心温かなご祝意を賜り厚く御礼申し上げます。

この度の受章はひとえに日本弁理士会はじめ、弁理士会等の活動を通してご指導頂きました先輩諸兄の弁理士の皆様、その他多くの皆様方のご支援とご高配の賜と深く感謝申し上げます。また弁理士会事務局関係者の皆様にはこの度大変お世話になり、ありがとうございました。

弁理士会の活動にはこれまで可能な限り参加させて頂く一方、会務とは別に知

的財産事務管理の実務に関する多岐に亘る活動等々させて頂く機会を得ました。これが公益活動として今般、評価対象の一つとされたものと思われませんが、こうした会内外での活動を長く続けてこれましたのは、所属する事務所の創立者である故青木朗先生の多大なお力添えあってのことであり、受章にあたり記して茲に深い感謝の念を表す次第です。

実は、そろそろ弁理士人生に区切りを…と考え始めた矢先での受章であり、こうした時の縁に驚きつつも大変嬉しく思います。これからはもっと肩の力を抜いて張り切り過ぎず自然体で、と思っております。

これまで多くの皆様方から賜りました数々のご厚誼に重ねて感謝御礼申し上げますと共に併せて皆様方のご健勝を心から祈念致します。ありがとうございました。



黄綬褒章（弁理士業務功労）

はら さき ただし
原 崎 正

学歴・職歴

昭和 49 年 長崎大学 工学部 土木工学科 卒業
(現在) 原崎特許商標事務所

弁理士会歴

昭和 58 年 弁理士登録 (9008 号)
平成 8 年～平成 9 年 九州委員会 副委員長
平成 9 年～平成 10 年 九州委員会 副委員長
平成 10 年 九州委員会 委員長
平成 11 年 九州部会 部会長
平成 17 年～平成 18 年 九州支部 幹事
平成 18 年～平成 20 年 日本弁理士会常議員
平成 18 年～平成 19 年 九州支部 幹事
平成 18 年～平成 19 年 常議員会第二委員会 委員
平成 19 年～平成 20 年 常議員会第二委員会 委員
平成 24 年～平成 25 年 九州支部 幹事

賞

平成 13 年 日本弁理士会特別功労表彰
平成 20 年 日本弁理士会特別功労表彰
平成 23 年 日本弁理士会永年功労表彰

受章に浴して

この度は、平成 26 年秋の黄綬褒章に浴し、身に余る光栄に存じます。これも、ひとえに、日本弁理士会をはじめ、関係各位のご尽力の賜と、心から感謝申し上げます。

10 月には青色発光ダイオード (LED) で 3 人の日本の研究者がノーベル賞を受賞することが決まり、発明を扱う弁理士として、また日本人の一人として、嬉しく思います。

弁理士として私がこの 30 年間に長崎県内で発明相談会を担当した回数は 1300 回程です。最盛期には定例の相談会が月に 6 回、これに臨時の相談会を含めると、多いときには月に 10 回を超えたこともありました。発明相談会を休んだのはこの 30 年間で 2 回です。

私が定例の発明相談会を長崎県内で初めて担当するようになったのは昭和 60 年 4 月からで、場所は実家のある市役所で毎月第 2 金曜日でした。そこでの相談会は数年前まで続き、その後は別の会場になりましたが、この間、一度も休むことなく皆勤しました。

はからずも、この度の受章で、この 30 年間、発明相談会を最優先にしてきたことが無駄ではなかったと、報われた思いがしました。また発明相談会を最優先して迷惑をかけた家族に感謝したいと思います。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。